

「教職課程年報第 18 号」の発刊に寄せて

教職支援センター長

三宅 茂夫

2024 年元日、思いもよらない巨大な地震が能登半島で発生し、甚大な被害を被ることとなりました。お亡くなりになりました方々に衷心よりお悔やみ申し上げます。さらに、被害を受けられた多くの皆様におかれましては、今なおたいへんご苦勞をされておられることと拝察し、こころよりお見舞い申し上げますとともに、平穩な日常が一日も早く到来しますことをお祈りいたします。

昨今の「歯止めのかからない少子化」「教員や保育者のなり手不足」などが深刻な社会問題となるなかで、教育や保育の現場、教員や保育者の養成・採用などを取り巻く状況は大きく変化しています。苦慮しつつも「背に腹は代えられず」で、今後さらに進んでいくと考えられる教員採用試験実施時期の前倒しは、これまでの養成課程のカリキュラムなど養成教育のあり方を大きく変えていく可能性があります。一方で、社会変動の波は大きく、将来を見通せない不確実な時代にあって、学校教育への社会的要請に応えるべく、文部科学省は「令和の日本型学校教育」の構想を打ち出しました。そのなかで、「強みと専門性」を備えた資質・能力の高い教員像が示され、養成教育においても ICT の活用やインクルーシブ教育、SDGs、STEAM 教育などに関する理解と、それらの教育を実践できる力を身に付けるためのカリキュラムが求められています。

しかしながら、時代や社会がどう変わろうと、社会の担い手である人材を育てていくことが学校の役割であることに変わりはありません。また、子ども一人一人が理想や希望、夢などをもち、それらを実現し、明るく豊かで確かな現在や未来を子どもと共に創造していくという教員・保育者の役割も変わりはありません。そのためには、「子ども」という存在を深く理解し、教育・保育の不易流行という観点からみずからの教育観・保育観を探究し続け、それを具現化できる資質・能力を修得し、時間をかけて磨いていく必要があります。

教員・保育者養成も難しい時代となってきました。時には迷うこともある学生に対して、「よい教員・保育者になりたい」「よい授業・保育がしたい」といった動機を育てつつ、一方で変化する教育・保育課題に向け、さらに教育・保育のイノベーションに呼応して、養成教育も変革していくことが求められます。学校教育などにおける今日的な学びの姿である「主体的、対話的で深い学び」に導く教員や保育者にも主体性と対話力が必要であることは言うまでもありません。そうした力の素地を形成するための学びの機会や環境を、先生方のご担当になる授業でさらに豊かにつくっていただけますようお願いいたします。

春を迎えると多くの学生たちが新たに教員や保育者になります。おかげさまで今年度の教員

採用試験の合格者ならびに合格率は過去最多となりました。日々懇切丁寧に学生たちとかかわり、熱心にご指導いただきました関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。これまでの努力が報われ、晴れて教員・保育者になるみなさんに敬意を表すとともに、心身健康で教員・保育者として大きく成長、活躍されますことを心より祈念しております。教壇に立つということは、スタートラインに立つということにほかなりません。これからも幾多の喜びと試練が待ち受けていることでしょう。何か困りごとや悩みごとができた時には、ささやかなことでもいいので本学教職員に連絡をください。いつもでもわれわれは、みなさんを応援しています。

大学において教職や保育職を目指して学んでいる段階のみなさんには、教育や保育の本質を学び、教員や保育者に必要な基礎的・基盤的な力を身につけていくことが求められます。そのために学ばなければならないことには、授業や保育の実践のための基礎・基本を身につけることは当然のこととして、さらに、集団の力を活用して個々の子どもの能力を高めることや同僚と協働してチームで子どもを教育すること、それらのなかで子どもが自分自身を伸ばしていこうとする意欲を育てていくことなどがあります。みなさんには、普段の授業や実習、学校観察実習などを通して、自分なりの教育観・保育観や教員像・保育者像を明確にし、その実現を目指してほしいと思います。最近、大学生の気質が内向きになり、外に出て学ぼうとしなくなったという声を耳にします。どうか教育や保育の現場に出向いて、積極的にボランティアや学校観察実習などに取り組んでみてください。現場での生きた経験は、みなさんの教員や保育者になりたいという意識をさらに高め、学ぶべきことに気づかせてくれるはずです。

先般受審しました大学・短期大学の認証評価ならびに新たに義務化されました教職課程の自己点検・評価において、「適」の評価を受けました。これも関係のみなさまとこれまで力を合わせ取り組んでまいりました成果と考え、感謝申し上げます。教職支援センターは、今後とも関係のみなさまのお力添えをいただき、資質の高い教員養成、特色ある教員養成、学び続ける教員の養成を目指し、また教職を志すみなさんの目標実現を図るために、全学的に教職課程を統括する組織として教育部門と事務部門が一体となって支援を行っていきます。